

▼ タケスリン静注用 [注]【製造中止】

【重要度】★★【製造中止】 【一般製剤名】セフスロジンナトリウム cefsulodin sodium (CFS) 【分類】緑膿菌用セフェム系抗生物質製剤

【単位】▼0.5g・▼1.0g/V

【常用量】0.5～2g/日（最大4g/日）

【用法】分2～4、静注・点滴静注・筋注

【透析患者への投与方法】腎外クリアランスが52%低下する（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983 および Evans WE, ed: Applied Pharmacokinetics 3rd ed p8-1-8-49）ため初回1g投与、その後は0.5g/日または透析後に1g（5）【その他の報告】減量必要（1）

【保存期腎不全患者への投与方法】CLCr>50mL/min :1.0gを1日2回, CLCr10～50mL/min :1.0gを12～24hr おき, CLCr<10mL/min :1.0gを24hr おき（5）【その他の報告】CLCr>50mL/min :常用量, CLCr10～50mL/min :常用量を12～24hr おき, CLCr<10mL/min :常用量を24hr おき（10）

【特徴】第3世代セフェム注射液。緑膿菌に対し特異的に抗菌作用を示す。緑膿菌の細胞外膜透過性に優れ、かつペニシリン結合蛋白分画1a, 1b, IIIに対する親和性が高いため、細胞壁ペプチドグリカン架橋形成阻害作用が強いとされる。緑膿菌に対する抗菌力はゲンタマイシン等のアミノグリコシドとほぼ同等であり、セフォペラゾン、ピペラシリン、カルベニシリンより強い。アミノグリコシドと作用機序が異なるため交差耐性が認められず、アミノグリコシド耐性緑膿菌にも抗菌力を示す。

【主な副作用・毒性】ショック、急性腎不全、TEN、顆粒球減少、発疹、蕁麻疹、紅斑、貧血、好酸球増多、血小板減少、肝障害、消化器症状、頭痛、めまい、倦怠感など

【モニターすべき項目】出血時間、プロトロンビン時間、便検査（偽膜性大腸炎をチェック）

【代謝】されない（1）

【排泄】尿中未変化体排泄率60～70%、胆汁排泄率0.05～0.45%（1）尿中未変化体排泄率73.2%（6hrまで）（Reed MD, et al: Antimicrob Agents Chemother 25: 579-581,1984）84.4%（Washida H, et al: Jpn J Antibiot 41: 1272-1278,1988）【CL】100～160mL/min（1）136mL/min（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983）【腎CL】75.1mL/min（Reed MD, et al: Antimicrob Agents Chemother 25: 579-581,1984）【透析患者のCL】27.2mL/min（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983）

【t1/2】1.3～1.7hr（1）健常者1.77hr（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983）1.53hr（Reed MD, et al: Antimicrob Agents Chemother 25: 579-581,1984）【透析患者のt1/2】10.12hr（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983）

【蛋白結合率】7%（1）

【Vd】0.24L/kg（Reed MD, et al: Antimicrob Agents Chemother 25: 579-581,1984）0.26L/kg、腎不全でも変化なし（Matzke GR, et al: Antimicrob Agents Chemother 23: 369-373,1983）

【MW】554.52

【透析性】5時間透析で透析液に30%回収される（Lecaillon JB, et al: Antimicrob Agents Chemother 26: 368-372,1984）【CAPDの透析性】静注後5時間貯留してCAPD液中には静注量の8.7%のみが回収（Brouard R, et al: Clin Nephrol 30: 197-206,1988）

【TDMのポイント】TDMの対象にならない【pKa】2.6（1）

【更新日】20110607

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。